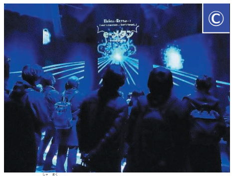
2025年大阪・関西万博に行こう！ vol.6

準備万端！おばけの世界へようこそ

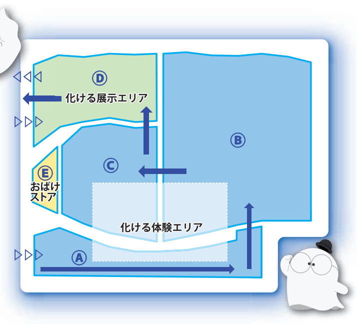
おばけワンダーランド解剖図

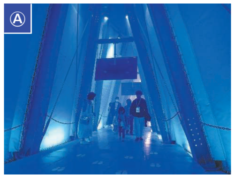
e-メタンやガスのカーボンニュートラル化への取り組みを展示で紹介するエリア。事前予約なしでも入場可能



5面の紗幕（しゃまく）スクリーンと照明などの幻想的な演出とともに、おばけワンダーランドで起こったことが明かされる

おばけストア。ミッチーのぬいぐるみやミニタオル、チョコクランチなどオリジナルグッズを販売





入場ゲート。おばけの世界に没入するための「バケルゴーグル（XRゴーグル）」の装着方法などを伝えられる

おばけワンダーランド。バケルゴーグルを付けて、現実世界から拡張現実（AR）、仮想現実（VR）の世界を体験

「記憶に残る万博に」

新たなエネルギー学ぶ機会

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の開幕まで2週間を切った。「いのち輝く未来社会のデザイン」をメインテーマに、世界各国や民間のパビリオンが出展される他、未来社会を先取りしたさまざまな事業も展開される。日本ガス協会の「ガスパビリオン おばけワンダーランド」も、多くの来場者を出迎える準備が整っている。1月1日付けで館長に就任した金澤成子さんに、開幕に向けた意気込みなどを聞いた。

仲間たちとともに。前列右から3人目が金澤成子館長

――いよいよ万博開幕が近づいてきました。今のお気持ちは。

本当に感慨深い思いです。構想から数年かけてようやく開館した「ガスパビリオン おばけワンダーランド」が、いよいよ世界中の皆さまに体験いただけると思うと、私たちもドキドキ・ワクワクが止まりません。準備中はさまざまな課題を一つずつ地道にクリアしながら検討を進めてきたので、ようやくこの瞬間を迎えられることに大きな喜びを感じています。

万博の開幕に向けて、チームメンバーやパートナーの方々と「One Team」となって力を合わせて準備を進めてきました。「より良いものを創りたい」というみんなの想いが詰まったパビリオンが完成し、仲間たちの情熱と努力に心から感謝しています。

――ガスパビリオンの見どころや、来場者に期待することは。

バーチャルパビリオンのメインビジュアル

見どころの一つは、最新の技術が織り込まれた「バケルゴーグル（XRゴーグル）」です。ゴーグルを着用し、「おばけワンダーランド」という不思議なおばけの世界へ没入するような体験をしていただけます。

開催期間中はできるだけ多くの方々に足を運んでいただき、アトラクションを通じて将来の社会や環境、エネルギーについて考えるきっかけとなればうれしく思います。エネルギーは私たちの暮らしに欠かせないものです。持続可能なエネルギーの可能性や新しい技術などについても、楽しみながら学んでいただける内容となっています。

特に未来を担う子どもたちには、たとえ一歩ずつであっても、思いやりの心をもって一人ひとりの意識や行動を変えていけば、社会をより良いものに大きく変化させる（化ける）ことができると感じていただきたいです。

また、万博会場にご来場いただけない方々には、ぜひ「バーチャルガスパビリオン」でおばけワンダーランドの世界観をお楽しみいただきたいと思います。

――最後に、来場者の皆さんにメッセージをお願いします。

パビリオン出展の検討・企画を続けてきた中、新型コロナウイルスまん延や世界を取り巻く情勢の変化など、「いのち」について考えさせられる機会が多くありました。大阪・関西万博は「いのち」をテーマに、さまざまな国の文化・価値観に触れ、五感を使って体験することで多様性あふれる世界を理解・共感し、将来の社会や自分たちの暮らしなどを考えることができる絶好の機会と考えています。

また、50年カーボンニュートラルの実現に向けて、都市ガス業界がメタネーション技術の開発や「e-メタン」の普及に取り組んでいくことも、世界に広く発信する貴重なチャンスと捉えています。

万博会場やガスパビリオンでさまざまな新しいもの・ことに出会い、いつまでも印象に残っていくような機会になればうれしいです。私自身、1970年開催の大阪万博で見た、笑った顔のガスパビリオンを今でも鮮明に覚えています。「ガスパビリオン おばけワンダーランド」も子どもたちの記憶にいつまでも残り続けてほしいですね。

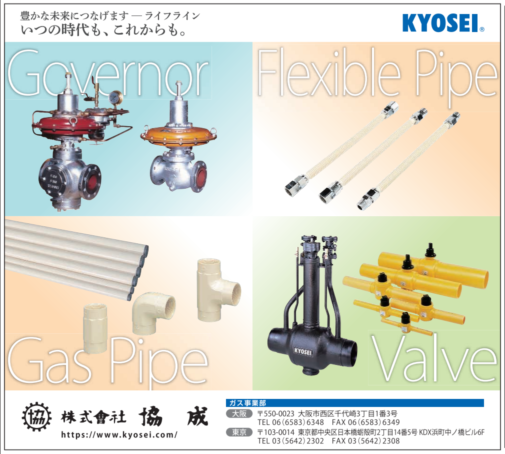
ご来場の皆さまにとって「万博行ったら、行かなあかん」パビリオンを目指して、また最高の笑顔と満足をお届けできるよう、準備を万全に進めてきました。たくさんの驚きや笑顔に出会えるのを楽しみにしています！

メタネーションも準備着々

4月13日の実証開始に向けて

大阪ガスが参画するメタネーション実証事業についても、着々と準備が進んでいる。実証プラントはおよそ6カ月をかけて舞洲の実証エリアから移転され、「化けるLABO」と命名された。4月13日から実証実験を開始し、来場者にも見学の機会が設けられる。

「化けるLABO」で製造されたe-メタンは、万博会場内の迎賓館の厨房やガスコージェネレーション設備などに供給され、利用される予定だ。



京葉ガス

電子商品券で地域経済活性化

地域と協働、「おでかけ納税」でも活用

京葉ガスは、ギフティ（東京都品川区）と協業して電子商品券「京葉ガスe街ギフト」事業を開始した。京葉ガスe街ギフトは登録店（飲食店や理美容店、クリーニング店等）での支払いに利用できる電子商品券で、現在は、京葉ガスの供給エリア内の8市478店舗が登録済みだ。8市の一つ千葉県市川市では、昨年4月からふるさと納税の返礼品として、京葉ガスe街ギフトを取得できる「市川市おでかけ納税」を開始した。京葉ガスは本事業を地域経済活性化に貢献できる事業と位置付け、拡大していく方針だ。

京葉ガスe街ギフトは、ギフティのプラットフォームを活用し、利用者がスマートフォンを使い、登録店での支払いに利用できる仕組みだ。

京葉ガスの役割は、業務用顧客への販売促進品としての配布や、ガス展の抽選景品などでの配布を通じて、京葉ガスe街ギフトの利用者を拡大し、同社のガスや電気の利用店舗へ送客することが一つ。もう一つは電子商品券の利用先（登録店）を拡大し、京葉ガスe街ギフトを、より魅力のある電子商品券へポジションアップすることだ。

さらに「ふるさと納税」の一種「おでかけ納税」（その自治体への訪問客が現地または事前に納税し、訪問先の現地で返礼品を受け取れる仕組み）に採用されることで、自治体の寄付額増加による財源確保に貢献でき、自治体との関係強化と地元店舗への還元を狙うことができる。

京葉ガスは2020年ごろから新規事業を検討。コロナ禍を経て①業務用顧客への送客による営業支援や関係強化②地域経済活性化への貢献③接点機会の創出＝京葉ガスe街ギフト登録勧誘を契機とした新規顧客獲得――を目的として、京葉ガスe街ギフト事業を開始した。先行導入していた他ガス事業者とも意見交換を実施し、ギフティとの提携を決めた。

法人営業部ビジネスサポートグループの岡田信貴主任は「登録店さんからは、負担ゼロという点、また（スマホの画面に）スタンプを押すだけで決済可能なシンプル仕様で喜ばれている。登録店さんの声を反映して、支払い頻度も開始当初は月1回であったが、月2回に変更した」と話す。

法人営業部ビジネスサポートグループの明石望愛さん（左）、同グループの岡田信貴主任

使用する際はスタンプ型の電子デバイスを画面に接触させる

登録店は、飲食店、理美容店、クリーニング店など地域密着型の店舗が多いことから、分かりやすく、店側の負担が少ないことがポイントだ。京葉ガスe街ギフト登録店向け専用サイトをギフティがプラットフォームとして用意しており、京葉ガスも登録店も同サイトを通じて利用状況をすぐに把握できる。

登録目標は700店舗

今年2月末で登録店舗数は8市の478店舗に拡大し、25年に700店舗の登録を目指す。

23年に登録店へアンケートを取ったところ、「送客効果を感じた」「新規のお客さまが来店した」との回答があり、京葉ガスe街ギフト事業の効果を実感することができたという。

少数精鋭で奮起

登録店拡大の営業活動の中心は、20～30代の社員3人とリーダー、マネージャーの5人で構成された少数精鋭の法人営業部「地域グループ」だ。各人が担当エリアの登録希望店一軒一軒に丁寧な説明を行っている。

おでかけ納税の自治体への提案については法人営業部公共グループ、法人営業部内での京葉ガスe街ギフト活用についてはビジネスサポートグループなど複数部署が連携している。岡田主任は「限られた人数だが現在も試行錯誤を重ね、最適な運用形態を探っている」と話す。

課題の一つは京葉ガスe街ギフトの流通方法の拡大だ。これまで▽業務用顧客への販売促進品▽ガス展の抽選景品▽おでかけ納税――での流通のみだったことから京葉ガスe街ギフトの流通量は限られていた。

今年2月からは、同社の顧客向け会員サイト・ウィズ京葉ガスで展開する電力の使用量などに応じてたまる「がすたんポイント」と京葉ガスe街ギフトを交換可能にした。加えて、同社の他部署やグループ会社など、全社的に販売促進品等として活用する方針だ。

同部ビジネスサポートグループの明石望愛さんは「すでに多くの方に交換していただいている。知名度をさらに上げて多くのお客さまに京葉ガスe街ギフトを使ってほしい」と話す。

市川市の返礼品に採用

京葉ガスは24年4月22日に市川市と業務委託契約を締結、京葉ガスe街ギフトは市のふるさと納税の返礼品に登録された。利用者はふるさと納税の一種である「おでかけ納税」をすることで、その額の30%分が市内の飲食店で使える京葉ガスe街ギフトとして発行され、その場ですぐ利用できる。市内の飲食店の売り上げに直接貢献し、登録店の勧誘から管理、ホームページの運営、登録店への精算業務まで京葉ガスが一括して提供する点などが市から評価された。

現在、京葉ガスe街ギフトは大手のふるさと納税サイトには掲載されていないため、知名度がそれほど高くない。

明石さんは「登録店舗に置いてもらうPOPやシールでおでかけ納税を気軽にやってみようと思うような文言を入れたデザインにしている」と話す。

京葉ガスでは現在、市川市以外の自治体にも、京葉ガスe街ギフトを活用したおでかけ納税の導入を提案している。地域経済活性化の新たなツールとして、京葉ガスe街ギフトの仕組みを深化させ、地域を元気にしていきたいという。

市川市おでかけ納税の登録店舗に配布しているステッカー

【京葉ガスのプロフィール】
▼本社＝千葉県市川市▼ガス供給開始年＝1928年▼社長＝江口孝▼供給区域＝千葉県市川市、松戸市、鎌ケ谷市、浦安市の全域。船橋市、柏市、流山市、白井市、習志野市、我孫子市の一部区域▼ガス需要家件数＝99万6527件（2024年末）

市川市

新たな人流の創出生む返礼品

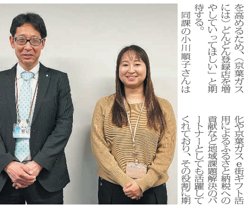
市川市は、市内飲食店で利用できる電子商品券「京葉ガスe街ギフト」をふるさと納税の返礼品とする「市川市おでかけ納税」を2024年4月から導入している。

市川市経済観光部観光振興課の野村佳慎課長は「市川市おでかけ納税という、都市部でも利用できるふるさと納税の新たな仕組みを導入することで、寄付額向上につなげていきたい。実際にお店に来てもらい、気になる店を開拓し、市川市の魅力を知って、また来てもらうといった人流を創出できることが大きなメリット。地域経済への波及効果を高めるため、（京葉ガスには）どんどん登録店を増やしていってほしい」と期待する。

同課の小川順子さんは「市川市おでかけ納税を呼び水に、市のおすすめスポットにも足を運んでほしい。JR市川駅からすぐの市の展望施設は、特に夜景が素晴らしいので市川市にまた来たくなってもらえると思う」と話す。

京葉ガスは長年、市川市民納涼花火大会など市の地域行事をサポート。地域の活性化に尽力している会社として認識されているとい、野村課長は「長年地域に不可欠な都市ガスを供給していただいており、また市のイベントを一体となって盛り上げてくれている。最近では、さらに市のカーボンニュートラル（CN）化や京葉ガスe街ギフト活用によるふるさと納税への貢献など地域課題解決のパートナーとしても活躍してくれており、その役割に期待している」と語る。

なお、市川市と京葉ガスは、23年にCNシティ実現に向けた連携協定を締結、25年1月には千葉銀行を加えた3者で地域新電力会社を立ち上げるなど信頼関係を築いている。


市川市経済観光部観光振興課の野村佳慎課長（左）、同課の小川順子さん

京葉ガスe街ギフト登録店 尾張屋

寄付以上の効果を期待

「京葉ガスe街ギフト」の登録店で、おでかけ納税による京葉ガスe街ギフトの利用第1号となった鰻（うなぎ）専門店「尾張屋」は、JR市川駅前の創業79年の老舗だ。市外から来た客に、勧めたところ、簡単に利用につながったという。

尾張屋は京葉ガスe街ギフトの登録店として2023年の実証開始から登録している。4代目店主の板倉大介さんは「昨年から、おでかけ納税が始まり、新たな市外からの顧客の開拓や地域活性化につながっており、大変ありがたく思っている」と歓迎する。

また「単なる返礼品にとどまらず、実際に市川市に来て食事をとるなど市川市でさまざまな体験をしてもらい、それが心に残ったらまた来たいと思わせる仕組みだと思う。店側としても、旬で鮮度の良いものを返礼品として提供できるメリットがある」（板倉さん）。

すぐに売り上げに直結するわけではないと前置きしつつも「市外からも人を呼べる取り組みにポテンシャルを感じる。おでかけ納税が増えれば市の財源にプラスになる。京葉ガスe街ギフトがたくさん発行され地元企業の売り上げに貢献すれば、店の雇用や設備投資に回る。新たな人流も生まれることで、ふるさと納税の寄付額以上の経済効果が期待できる」と評価する。

京葉ガスへの期待として「京葉ガスは社会の持続可能性が求められる中でクリーンな商材を扱っているイメージが強い。相談を気軽にできる間柄でもある。おでかけ納税での京葉ガスe街ギフトの試みのように地域の活性化をけん引してほしい」と語る。

尾張屋の4代目店主・板倉大介さん

日本ガス協会のページに関するお問い合わせは広報グループ、鈴木（☎03・3502・0112）まで。